

令和6年度第2回和歌山市廃棄物減量等推進審議会 記録

日時：令和6年11月7日（木）午後2時～午後3時30分

場所：和歌山市勤労者総合センター6階文化ホール

事務局から開会あいさつ

局長あいさつ

市（事務局）出席者紹介

資料確認

会長選出

（会長）

5月に第1回審議会をした後に委員の更新がありましたが、昨年度に引き続き担当される委員の皆様もいらっしゃるので、挨拶は短めにしたいと思います。

前回冒頭の挨拶で、第6次の環境基本計画のお話を少しさせていただきました。よりウェルビーイングの高い社会を築いていく、地上資源を活用する社会に移行していく、などがうたわれています。

この審議会は資源フローの末端の方を扱ってる審議会なので、そういう側から、先に述べたような社会づくりに向けての計画づくりをぜひ推進していけたらと思いますので、忌憚ないご意見、活発なご議論をお願いしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

それでは早速審議会の議題に移らせていただきます。まず初めに議事1と議事2についてまとめて事務局より説明をお願いします。

（事務局）

（議事1 令和5年度一般廃棄物（ごみ）処理の状況等について 事務局担当説明）

- ・令和4年度（実績値）と令和5年度（暫定値）のごみ処理費用、ごみ排出量について

（議事2 使用済みつめかえパック（パウチ）の回収実績について 事務局担当説明）

- ・市、県、楠見小学校での回収量実績、花王㈱への引き渡しについて

（会長）

ありがとうございました。それでは議事1及び議事2について、ご意見、ご質問等ございましたら、よろしく願いいたします。

まず私からコメントですが、1人当たりのごみ処理費用が2,200円削減になったというのは非常に重要なメッセージであると思います。決してごみ削減の取組は無駄になっているわけではなく、めぐりめぐって自分たちの財布に返ってくるということがはっきりと数字で出てきたということで、次の計画書を待たずにいろんな媒体で広報していただきたい

と思います。

それから、これも毎度申し上げていますが、言うは易し実際は難しいと承知の上で、3きり運動の啓発とかそういうものの効果があろうと予想されますが、何かそれを示すようなデータがあればと思います。「あれもこれもやったけど一体どれの効果が出たのかわからない」という状況ですので、例えば生ごみの含水率というのを、定期的にサンプル調査をして、水きりが進んでるといのが確認できるのかどうかなど。あるいは簡単ではないですが、モニターを募集して、モニターの人に水きりの実行具合を日々チェックしてもらい記録してもらうなど、何かあればという願望でありますのでお考えいただければと思います。

また、事業系のごみに関しても、データを見てると平成28年からほぼ横ばいという状況で、どこか頭打ちになっていますので、なにか要因があるんだろうなと思います。こういう要因でという、何かお気づきの点があれば教えていただきたい。

(事務局)

家庭ごみの減量は確実に進んできており、3きり運動の水きりだけではなく、使いきり、食べきりなど、そのあたりの検証について、全体としては難しいですけど2年に1回ごみの細分別というのをやっていますので、水分の変化などもお示ししていけたらと思います。

あと事業系について、コロナ明けから事業活動が上がってきて、ごみが増えてきたのは行政としては喜ばしいことだという意味合いもあるんですが、我々としては、250グラムを目標値にしているんですが、元々家庭の一般ごみ置き場に事業系のごみが出されていたというのもあり、こういった事業系のごみを家庭系ごみとして出さないよう、啓発チラシを今年度も1度自治会回覧を行い、事業系一般廃棄物は許可業者に依頼、もしくは自己搬入ということ、広報させてもらっております。だんだんと事業者分が移行された結果で目標達成に至っているのか、実際のデータでは今持ってないですが、そのデータ、許可業者との契約件数の推移など、次回お示しできたらと思います。

(委員)

和歌山市と中核市の比較のデータがありますが、この中でいい成績を上げてるのは、この近くでは奈良市が、和歌山市と比べて家庭系のごみ排出量が少ないです。

奈良市がすぐ近くにあるわけですから、意見を聞いたりしましたか。何がどう違ってこれだけの差があるのか、どういう分析をなされたんでしょうか。分析をされたなら、ご見解をお伺いしたいです。

(事務局)

実際に奈良市と個別に協議したということはありません。ただ、日々中核市から照会が来るので、それを通して情報交換として、情報を得ています。

(会長)

奈良市では観光客も多いと思いますが、どうしてこうやってうまくできているのか、ヒントがあるかもしれませんので、ぜひ、分析と調査を進められたら、ご報告いただきたいと思っています。

(委員)

2点確認させてください。1点目、令和4年度に36.5億円で、順調に下がっているにもかかわらず、これが今年は38億円で少し上がっています。これは、売電分の収益が落ちたということですが、その売電分の金額はいくらぐらいでしょうか。

(事務局)

青岸エネルギーセンターでは発電を行っているんですけども、余剰電力の売電分としては電力が上がったこともあって、年間で約4億円売電しておりました。

(委員)

ありがとうございます。収益は基本的に売電だけという考えて大丈夫ですか。収益の部は売電だけでしょうか。

(事務局)

あとごみ処理手数料というのも収入で、これも年間約4億円となっています。

(委員)

ありがとうございます。というのはごみ処理場というのは、ごみを処分するだけの場所ではなくて、新設の処理場とかはエネルギーを供給する、災害があったときにすぐに地域の人が使えるところとかっていうレジリエンスとか言いますが、地域の回復力高く、長く強靱なまちづくりに寄与することが期待されています。

だから、費用の上に載せるのではなくしっかり社会にエネルギーを供給してる部分をはっきりお見せした方が単なるごみ処理施設ではないというのがメッセージになると思うのでご検討ください。

2点目ですね、つめかえパックの回収実績、当然リサイクルに関しては物質を物質に同じものに戻してやるという水平リサイクルを最優先するっていうのがあり、今回やられてるのが水平リサイクルということですが、ライフサイクルアセスメント的な評価はなされていますか。念のためなんですけど、もう1つのオプションは回収にエネルギーとか労力をかけるよりも、いわゆる熱で回収するサーマルリサイクルで、熱で回収した方が効率的じゃないかというご意見もある上で、手元にそういうライフサイクルアセスメント的な指標があるのか、あるいは評価されている事例を知っているのか、その辺いかがでしょうか。

(事務局)

ライフサイクルアセスメントについて、現在花王さんでこれを行っているんですが、回収については、現在、実証実験なので、和歌山市役所の場合は、市役所に持ち込み、家から持ってきてもらっています。だから、今後花王へ持っていくまでの交通経費もあると思うんです。この辺についても、今は実証でやってまして。次に、店舗などの拠点回収になると思うんですけども、その回収の仕方についても、既存のごみの回収ルートに載せながら回収する方法を考えています。

私たちのごみ収集の関係では、パッカー車でもEVが出てるんですが、まだまだ普及ができてないということありますので、その辺についてはこれからの回収の仕方を考えていきたいと思います。

(委員)

ありがとうございます。花王という大きな会社さんと共同して、先進的な事業をやられてるっていうので教育効果を最大限高める意味でも科学的根拠が少しありつつ、地域分散配置システムにかかわってくるのですごくいいと思います。

(委員)

私はちょうど楠見校区に住んでおり、パウチの回収について学校の方から地域の皆さんも協力してくださいということで、私は早速協力させてもらったんですが、実際のところ、面倒くさかったです。最近ちょっと止まっています。というのは、何度か水に流して泡の部分洗濯や洗剤として使ってますが、なかなか泡が消えないし、そんな綺麗にしてくれなくて結構ですと前におっしゃってくださったんで、適当に洗って乾かして学校へ持って行ってもらっているんですが、やっぱり何人か面倒くさいと話してます。

環境のことを考えるとした方がいいとは思いますが、ちょっと本当に面倒くさく、時間的にも洗剤だったら、桶に水貯めて一緒に入れておいてそれで油のついた皿を入れたりっていうのはやりました。でも、洗濯で使う洗剤も全体の量が決まっておりますし、シャンプーなども難しいです。とにかく、ちょっと面倒やねえって、私たち地域の生の声です。これからいろんなご意見等も出てくると思うんですけども、楠見校区にいる私の感想です。

(事務局)

貴重なご意見ありがとうございます。素直なご意見だと思います。実際に我々の中でも、洗って水を切って乾かすのは面倒くさいという意見はあります。このパウチを回収したからって、どれだけごみの減量になるとか、どれだけ脱炭素になるのかという意見は出てきております。

ただ、我々としては、花王が基幹産業である地域の中で、地産地消というわけじゃないですけど地域住民ができるような、という1つの思いがあります。先ほど言われた面倒くさい

というのもありますが、この面倒くさいことをやってもらって、皆さんのその行動変容に繋がればと思っています。この面倒なことができるなら、他のことでもできるのではないかと、いう連鎖的なごみの減量に繋がれば、と思いますので、ご理解いただけたらなと思ってます。

目的としてはもちろん、脱炭素・ごみ減量なんですが、行動変容ということでの取り組みであるとご理解いただき、実施していきたいなと思ってます。よろしくお願いします。

(会長)

ありがとうございます。

分別して洗浄して出すという行為をしていただいた方の声ですので、ぜひ適当でいいよ、完全に綺麗にしなくていいよというメッセージよりもう1歩踏み込んでせつかくそういうふうにいただいたので、このレベルまでだったら、残っていて大丈夫だよという民間のメッセージが、その生産者、消費者、生活者の間で、情報が流通するように、情報提供いただければと思います。お願いいたします。

(委員)

コメントになりますが、家庭ごみの排出量は、年々減ってきていますが、目標でいうとあと3年ほどで30グラムぐらい減らしていく必要があります。ごみの組成分析も当然されてるかなと思いますので、年度の比較などで、こういった種類のごみが多いとか、水分がどうなってるかとかそういったところを詳細に見ていただけると、この種類のごみをもうちょっと減らせるとか、いろいろ施策などを考えていくことができるかなと思いますので、そういったデータを見せていただけるとこの審議会でもご意見が出るのかなというふうに思います。よろしくお願いします。

(事務局)

細分別は隔年でやっていて今年度実施していますので、またお示しできたらと思います。

(会長)

使用済みの、パウチで質問というか、要望です。この資料の和歌山市・和歌山県庁・小学校の下の括弧書きの数字というのは、回収に出してもらった人数ですか。

(事務局)

この人数は対象人数です。対象というのは、市役所であれば本庁舎に勤務する職員、楠見小学校であれば全校生徒の人数です。

(会長)

4,500人で3ヶ月で42キロで、さっきちょっと計算すると、1人ひと月当たり3グ

ラム持ってきたという計算になりますし、これが果たして大きいのが小さいのかは物差しがないのでわからないんですけれども、多分回収拠点として学校とか役所とかっていうのは適切ではなく、普段の日常生活行動の買い物のついでとかではない場所なので、やっぱその回収拠点の適切なありようというの、少し議論していただきたいというのが1点です。

それから、容器包装リサイクルになりますので、この消費者は分別排出し、行政はそれを回収して、生産者へ届け、生産者はそれを再資源化するという役割分担になってるのかなと思うんですけど、ヨーロッパでは生産者の責任が重くて、生産者自らが回収に対して積極的に責任を果たしなさい、というルールが多いかなと思いますんでそういう意味では、一生懸命市民や行政が回収してお渡しするというだけではなくて、少しでも生産者自ら積極的に排出や回収に対して関与していくような、少し今までの責任の範囲よりもちょっとだけ、ほんの少しだけでもその役割を果たす、少し多めに果たすというような、何かそういう共同の体制っていうのが築けないかなと願望としてあります。

資源循環の分野で、拡大生産者責任という、言葉がありまして、生産者が従来責任の範囲を超えて、ライフサイクル全体に対して、自社が作ったものに責任を果たしなさいという、そういう政策理念がヨーロッパで浸透してますので、ちょっとそこへ近づく意味でも、新しい体制っていうのも検討できるのであればしていただきたいというふうに思います。

(委員)

このパウチの回収で、楠見小学校さん、結構成績が回収すごいいいですね。でも、主婦目線では面倒くさいことが多いということでした。子供たちからもそういう意見が出てるんですか。会長さんが言ったように、全体の教育を考えてから教育することを狙ってやってるんだったら、もっと小さいうちに、そういう裾を広げていって、和歌山市の環境を考えてくれるような人材を育てていくんだということだと思います。

県庁は少ないので、関係ないと思っているのか。子供たちは、面倒くさいなどと思っているのか、将来には、必要なことだと思っているのか、その辺ちょっと知りたいです。

(事務局)

まず、我々和歌山市役所としても、楠見小学校に負けてる状況なので、いきなり市民の方に回収しますってなると、難しいと思います。

なぜ小学校かというと、ターゲットは、子育て世代の、子供さんの親、家庭と考えております。その辺について、まず、実証でやってるのは、こういうふうに洗ってもらって出すっていうのを、学校にやってもらっているんですけども、この習慣を今度店舗へもっていったらなと思います。

先ほど委員おっしゃる通り、子供からの教育っていうのはこれから必要になってくるかと思えます。あと、いわゆる企業の責任っていうのもありますんで、この辺については、子供さんの意見、教育っていうのも、しっかり積極的に教育としてやってもらえたらなと思っ

てます。各家庭・世代全体をターゲットにしたいなと思ってますので、それは教育委員会とも話をしていきたいなと思います。

(会長)

多くのご意見いただきまして、ありがとうございます。進行上、ちょうどいい時間になりましたので、議事1と2については以上で追加があれば最後にご意見いただければと思います。次に議事3について、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

**(議事3 次期ごみ処理施設整備基本計画(案)【概要版】について 事務局担当説明)**

・施設規模(328トン/日)、メタン発酵施設の併設などについて説明

(会長)

ありがとうございました。それでは今の議事3についてご意見あるいはご質問ございましたらよろしくをお願いいたします。

私から言わせていただきますが、処理規模は今でどれぐらいですか。

(事務局)

今の現時点での処理規模としては、日量400トンとなります。

(会長)

人口減少の考慮、それからメタン発酵施設を併設と書いていますので、その生ごみ、または紙ごみメタンごみかもしれませんけどそっちに行くごみの量も考慮して、328トンということでしょうか。

(事務局)

生ごみと紙ごみをいれてメタン発酵に回したら、中身の処理能力として328トンとなります。

(会長)

ちなみに機械選別をして紙と生ごみをメインのターゲットとしていますか。

(事務局)

今現在入ってるごみの中のできるだけ、生ごみとか水分が多いようなごみをターゲットとして、メタン発酵施設に入れたいと考えています。

(会長)

それは機械選別ですか。

(事務局)

一旦ごみピットからクレーンで釣り上げて、そのあと機械選別でいらぬごみを取り除くというように考えています。

(会長)

さきほどもちよつとお聞きしましたが、その紙ごみは、焼却の方に向かうのかメタン発酵に向かうのかどちらですか。

(事務局)

紙は確かにガス量が増えるかわからないですが、あまり濃度的には高くないと聞いてますので、紙ではなくてできるだけ生ごみをターゲットにしたいと考えています。

(会長)

ちなみに発酵残渣の消化液とか、そういうものは隣接する焼却場で燃やすのかあるいは下水の方に流していくのかどういふ計画になっていますか。

(事務局)

発酵残渣については、そのままピットに戻して焼却するという計画です。

(会長)

焼却施設とメタン発酵施設の間で、余熱のやりとりとかはとくに考えてないですか。発酵槽の発電のつていふのは基本的にはメタンガスで発生したときの余熱利用する形ですか。

(事務局)

まだそこまでの検討はしてないんですけども、メタンガスをどういふ風に使うかも含めてこれからの検討となります。

(会長)

せつかく焼却施設に隣接させるのであれば、下水は別の場所ですかね。なんかその隣接施設間で、より高効率というか、効率のよい熱利用を考えていただくとおもしろいかなと思いましたが、また計画が進みましたら教えてください。

(委員)

資料3-2の施設計画ということで、4つの目標。3番目、地域と共存する施設ということでいわゆる再生可能エネルギーの計画なんですけど、地域最良という感じで総合施設が存在することで周辺の方々に喜んでいただけるような地元へのリターンで、例えばどんな方法があるんでしょうか。

例えば、大阪の南の方での新設の施設ですと、蓄電施設を入れて、何かあったときに、地域の方々が携帯でなどを充電しにこれるとかですね、圧倒的に不足しているEV車の充電組織を設置するとかそういう社会にも貢献することが計画されてたりするんですけど、どういう計画でしょうか。

(事務局)

具体的なことはこれからになりますが、例えば想定してる人としましては、ごみ処理施設の発電ということで、ほかの施設よりも電力量も大きな施設に考えてます。電気の地産地消的な考えも1つとしておりますし、環境学習もちょっと力を入れてまして、ただ見てこちらから示すだけじゃなくて来ていただいて、いろんなことを考えてもらえるような施設でありたいとか、また、地域の方が交流できるようなイベントができるような、催しもできるような施設にはしたいと考えています。

(委員)

ありがとうございます。廃棄物を処理するだけの場所ではなくてサーキュラーエコノミーという言葉を使いますが、地域の資源循環を支える施設としてとても大事ですので、よろしく願いいたします。

(会長)

ちょっと関連するかわかりませんが、たぶん次に処理施設を更新すると、30年・40年とその施設を維持することになると思いますので、その間により一層脱プラスチックというのが、進めざるをえない社会情勢になってくるかなと思う中で、持続して、施設の持つ処理能力が発電能力を生かし続けるにはどうしたらいいかということも考えないといけないと思います。

それは、ごみ処理は、廃棄物処理あるいは一般廃棄物処理だけで考えるのではなくて、やっぱり産業廃棄物も含めて、それから周辺を産業機関と連携しながら上手に、市が持つ焼却施設の機能っていうのを、地域の中で活用していくような、そんな取り組みも重要な部分かなと。もちろん一廃と産廃の処理の区分けの問題がありますが、次の30年・40年をそういうことも見据えながら検討していただくと、先進的な取り組みになるかなとは思っています。

これに関してはよろしいでしょうか。まだ何かございましたら最後でお願いしたいです。ご意見ありがとうございます。続きまして、議事4に進めたいと思います。

(事務局)

(議事4 家庭系粗大ごみの有料化制度について 事務局担当説明)

- ・自己搬入では、車両ごと計量し、重量に応じ料金を現金で徴収する案について説明
- ・戸別収集では、電話受付に加えインターネットからも受付可能とし、品目制でシールを購入し申込んだ粗大ごみに張り付けて出す案について説明

(会長)

前回いなかった委員の方もいらっしゃいますので、和歌山市の現状がどうなっているかの補足説明を軽くお願いします。

(事務局)

(補足 家庭系粗大ごみの現状について 事務局担当説明)

- ・中核市62市中59市が粗大ごみの有料化を行っており、和歌山市と他2市のみ無料であることを説明

(会長)

それではただいまの議事についてご意見ご質問ございましたらお願いします。

(委員)

自己搬入の場合、料金の徴収が現金のみとなっているんですが、それは電子決済にはできませんか。簡単に施設でできるんだったら、楽かなと思ったりしたんですが。

(事務局)

現在の計画では、事業者と同じところの計量棟を考えておりまして、施設設備自体を更新すればそういった機能も付随してくるのか。そこがちょっとまだ今、現段階でこういうことを同時についているところまでは考えておりませんので、そういった決済方法にも対応できるよう、目指していきたいと思います。

(会長)

ぜひ、市民にとっても、行政側にとっても負担が少ない方法でお願いします。

(委員)

今現在の案で結構ですが、料金は案としてどれぐらいの金額を考えていますか。妥当な金額かどうか、判断しづらいのと、あまりに高かったら、また、放置とかにつながる恐れもあると思うので。今現在考えておられるのはどのぐらいでしょうか。

(事務局)

すでに事業系一般廃棄物で料金を徴収しており、その金額が10キロ130円の従量制で取らせていただいています。ただ、家庭系でも粗大ごみの料金を徴収するにあたっては、この数字が参考となりえるのかなというのが現状で答えです。これは直接搬入の場合です。

(委員)

高いか安いかわかりづらい。なにか物差しがないと。大きいポイントなので。

(委員)

料金の話もありますが、これ目的っていうか、お金出すのが嫌なんで、粗大ごみ減らしましょうっていう話なんですよ。その部分を啓発しないと、市にお金がないので徴収を始めるという風に思われるのではないかと。

市民がお金を負担することで排出される粗大ごみを減らしていきたいということですよ。あと、量を減らすための話なのに、上限なしだと、金さえ払えば取ってくれると思われないか。だんだんごみの量が増える可能性もあると思うが、なぜ上限がないのか知りたい。

(事務局)

自己搬入の件については、収集センターストックヤードが管理していますが、排出するごみを偽って持ってくる方もいらっしゃいます。実は、今かなり厳しくチェックしており、自己搬入については、免許証などの本人確認ができる書類の提示を求めています。また、もちろん中身の確認もしていて、本人のごみかどうかというのも確認しますし、それについては、ストックヤードでかなり厳しくやっています。

上限設定については、引越など多量に排出する場合も考えられ、1日でごみを何度も捨てにくる可能性もあると思っています。その時に、上限を設けてしまうとどうしても1日で処分できず、ごみ集積所などへの不法投棄にもつながってくると考えます。

一般廃棄物収集運搬業の許可業者に依頼する方法もあるんですけど、自己搬入でも上限は設定せずにいいと思います。

また、先ほどから言われている金額の設定なんですが、戸別収集の方については、品目ごとに金額を設定し、シール1枚いくらと設定し、品目によってシールが何枚必要かを設定します。金額についてはいくつか案を出していきたいなと思っています。

(会長)

ありがとうございます。一方が従量制、もう一方が品目制なので、行政としては多分、自分たちで持ってきてくれた方が、処理コストが小さくなるので、逆転現象が起こらないようにというか、戸別収集してもらった方が安く済んでしまうような品目がないように、ぜひご注意いただきたいと思います。

(委員)

以前いただいた前の資料に品目の一覧表が載っていますが、このような形のものを市民に提供してもらって、市民が見て判断して収集をお願いするということでしょうか。

(事務局)

委員おっしゃる通りです。料金設定については、大きさ・重量・品目・個数とあって、この中で品目を和歌山市案として選んでます。

大きさの場合縦・横・高さで何メートル以上ということがわかりにくいですし、重さの場合は市民の方がおっしゃっている重量と取りに行つて測った時の重量が違うなどの手違いが起こるといふデメリットがありますので、品目ごとに、シール何枚で、同じ品目であったとしても、大きいもの小さいものとあるので、その辺は分かりやすいようにシール何枚とお示しするつもりです。

(会長)

ちなみに、大阪市の状況ですが、粗大ごみを早めに出して雨に降られてシールがボロボロになっているのをよく見ますので、ご参考になさってください。

(委員)

私も大阪市民で、大阪市は品物の種類や金額が全部 Web 上に列挙されていて、そのシールには金額が明確に書かれていて、コンビニで 200 円シール何枚とかで購入しつつ、Web 上で回収の登録をして、だいたい早くて 2 週間後に来てくれるようになっていて、家の前に置いておいたら回収してくれるようになってます。

場所によってシールとかいろいろ違うんだなとわかり勉強になったんですが、同時に無料化している市が和歌山市以外ではもう 2 市しかないんですが、なにか無料のメリットってどのようなものがありますか。例えば、和歌山市はごみを無料にしていたゆえに、不法投棄が 1 つもないんだみたいな、そういう話とか。皆さんが有料か無料の判断をするにあたり、無料のメリットみたいなをお聞かせいただければ。

(事務局)

メリットかどうかわかりませんが、他都市から引っ越しされてきた人はびっくりされています。市民サービスなのかなと思います。これが有料になると、市民の方からは不満が出てくるのではないかなと思います。今は、無料で出しやすいし、電話をすれば、取りに来てくれる、というのがあるのでその辺については住みよい街という面ではデメリットになるかなと思います。なので、出しやすいとかっていうのがメリットになると思います。

(事務局)

無料にしている場合の行政側のメリットとしては、料金徴収の事務に関して、自己搬入の分は現在の事業系一般廃棄物の自己搬入と一緒になのでいいのですが、シール制や申込の場合にシールを販売・管理する手間や経費が掛かってきますので、有料化する際のデメリットになり、これは無料の場合のメリットとなると思います。

あとは、大阪市の話であったようにシール剥がれなどの現場でのトラブルは、ある程度一定のコストがかかってくるのはやむを得ないものかなと思います。

(委員)

ありがとうございます。ですので新しく有料にすることで管理コストが発生すると、当然無料の状態でも処理コストっていうか何らかのコストが発生してるので、行政による計画も、費用減益分析のようなことで、行政的に優位性があるのか等含めて評価できた方が良いのかなと思います。

同時に、国際基準として汚染者負担というのが明確にルールとしてあるので世界基準に合わせてもいいと思います。

(会長)

無料と言いながら、税金で処理されてるわけですから、排出する人もしない人も広く薄く税金を取られていたっていう現状とそれに対して、排出者が負担するという、要するに、今までも決して無料じゃなかったということを伝えるようにしっかり発信していただければと思います。では次に議事5について事務局より、よろしく願いいたします。

(事務局)

**(議事5 製品プラスチックのリサイクルについて 事務局担当説明)**

- ・プラスチック製容器包装とペットボトル以外のプラスチック製品の分別開始を検討していること、収集方法・処理方法はまだ検討中であることを説明

(会長)

ありがとうございます。これから検討を本格化させるという段階の事案ですけれども、この議事についてご意見ご質問等あれば、よろしく願いいたします。

現状の燃えるごみとバケツが一緒に出てくるということはそうそうないと思うので、比較的分別して、小さい袋に入れて出すみたいの方が習慣づいて収集しやすいかもしれないのでその辺、現状の排出実態のところ、また少し調べた上で、制度設計されたらいいかなと思います。よろしいでしょうか。

(委員)

処理先が決まってないのであれば、なんでもかんでも集めてもリサイクルできないものもあると思うので、処理先を地元企業と密着してできるようターゲットを絞っていったらよいのではないかと。

(事務局)

委員がおっしゃる通り、近隣での処理先っていうのは、委託処理だけじゃなくて、そこでの資源として生まれ変わる拠点が近くにある方が、これぐらいの循環型社会としてはなりたつのかなと。もちろんその中間処理業者さんとはそういうのでありますし、そういう地産地消、還元剤とかRPF燃料化というの、結局製品として和歌山市から売るといいうい方は変ですけど。今のままだと和歌山市に拠点がなければ外に税金がどんどん出ていってしまうというんですかね。キャッシュがフローしてしまうので、これを中間処理業者の協力を得ながら、地産地消で和歌山市の中でお金が回る方がリサイクルというのは継続しやすいのかなと。継続というのはサステナブルで持続しないと、財政的にもちょっとしんどいかなと思いますので、その辺を念頭に置いて今後、処理先等検討していきたいと思っております。

(会長)

資金がなるべく地域内で循環するようにするのは大事だと思いますし、出口をちゃんと決めてから考えるべきというのももっともだなと思いますので、現状でも容器包装プラを分別しているのに、結局燃やしてのではないかみたいな、デマに近いような批判も起こってますので、そういうことがこの製品プラに関して起こらないようにしっかりと、リサイクルされてることが見えるような状態で、何かしていただければと思います。

(委員)

いろんなことを例えばこれだけごみを減量できたよとか、循環型社会ってこういう風にしていくんですよとか、市民にもう少しわかりやすく流していただきたい。

娘が横浜に住んでいて、娘がごみを出した時に収集車から「ありがとうございます。ごみを30%減量できました。」というようなことが流れてきたので、目で見えるのもいいんですけども聞こえるものも検討して欲しい。高齢者も増えてきたので、リリクル通信のような自分から見ただけでなく、収集車から聞こえると良いと思います。

和歌山市だと赤とんぼが流れるだけなので、目標とか言ってもらえるとわかりやすいのかなと思いました。

(事務局)

音楽については検討できるかわからないですが、例えば収集車の側面に啓発するなどもやっていけたらと思います。

(会長)

見える化だけでなく聞こえる化も検討いただければと思います。では議事6その他で言っておきたいことなどなにかあればお願いいたします。

(委員)

市役所の方知ってらっしゃるか、和歌山市民は粗大ごみが無料ということをもみな当たり前だと思っていて、皆さんに和歌山市ともう2市だけが無料だよってというお話をさせていただくんですけど、みんな知りません。無料やからありがたい、ごみが捨てやすい和歌山市がいいということで、粗大ごみが無料であるメリットは何かを、皆さん考えてらっしゃらないのが現実だと思う。それを有料にすることはすごい第一歩だと思います。そのことに関して、市民に対して和歌山市はこんな状態で、他の市町村はこういうことをやっているなどの広報が随分足りないと思います。

また、私事ですが、父が亡くなった時に粗大ごみを青岸に搬入しました。その時に、戸別収集のお願いもしました。本当に無料で助かりました。戸別収集で月5点までは少し少ないようなイメージがあります。

それからもう1点。ペットボトルを捨てる際に、ラベルと蓋を取って、別々にすることがなかなか浸透しない状態で、今後パウチの回収が始まると、ペットボトルではラベルと蓋を取るが、パウチでは蓋をつけたままにするというのを市民が理解できるのか疑問です。

あとプラスチック製品でカラーボックスがあると思いますが、大きいですよ。ごみ袋に入れて、工夫して入れようとしても駄目だっというケースがある場合、粗大ごみとして自己搬入したら有料、製品プラとして持っていったら無料ということになるんですか。その大きさとか、制限が必要じゃないですかね。どこか拠点に持ってくにしても、大きさもありますし、お店にしても容量があるでしょうし、もう一度お考えいただければと思います

(事務局)

製品プラについてはまだ検討中なのでいろいろこれからとなっております。有料・無料についても検討の1つですが、粗大ごみは有料化を目指していますので、それについても、本来なら有料だろうと考えていますが、検討していきたいと思っています。

有料化の広報も、粗大ごみ有料化については、もっと議論を詰めて、この審議会で諮問し委員からの答申をもらい、議員への説明やパブリックコメントをやっていくこととなります。有料化の広報はそれからとなります。5点までとしているのはあくまで、ごみ減量・もったいないことをしないためとしています。

(会長)

1人で高齢者が市内に住んでいて、身内が遠方に住んでる場合、頻繁に片付けにこれない場合は頻繁に排出できないので、毎月来てもらって5点まで出してくださいというのはさ

すがにちょっと非現実的ですので、もう少し柔軟な対応ができるような余地を設けられるような議論、検討をしていただければなと思いました。

(委員)

2点お伺いしたい。まずごみの焼却に関して、以前、水分量が多い場合は、燃料などを投下して燃やすということがあったと思いますが、今でもしているのでしょうか。その場合、年間どれぐらいの燃料を投下しているというのがわかれば教えていただきたいです。

次に、パウチの回収の楠見小学校ですけども、この小学校がやろうとなった理由があれば教えてもらいたいです。市の方から、楠見小学校に狙いを定めて声をかけられたのか、他の小学校にも声をかけてその中から楠見小学校が手を挙げて決まったのか、もしわかったら教えていただきたいと思います。よろしくお願いします。

(事務局)

まず、燃料投下について、今はごみ燃焼のためのカロリーが高い状態にあり、燃料は投下していません。

(事務局)

パウチについて、楠見小学校は今までもフードロスのごことで活動していたこともあり、こちらから依頼しました。今後、中学校や大企業の方をお願いしていくとか、まず習慣づけを市民の方にやってもらってから拠点回収にもっていききたいなと思っております。

(会長)

助燃材の投入に関して、これもまた SNS でおかしなメッセージがいっぱい出回ってます。レジ袋有料化でプラごみが減ったせいで、結局燃料の投入が焼却時に増えてるんじゃないかとかですね。いや十分カロリーが高いとおっしゃってましたので、そういう情報も正しいことを、ぜひ発信していただきたいなと強く願います。

活発な審議となりました。審議を終えさせていただきたいと思います。

私が前会長のもとで参加させていただいてから数年経ちましたが、計画の中身がものすごく前進してるなという印象を受けてますので、引き続きいろんな取り組み設計を進めていただければと思います。委員の皆様もそれに関して、引き続きいろんなご意見、ご議論いただきたいなと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上で本日の審議会を終了いたします。委員の皆様のご協力もあり、審議を終えることができました、誠にありがとうございます。

事務局から閉会のあいさつ 【終了】